

令和4年7月29日

上伊那道德教育研究会 報告

## 夏期研修会が開催されました

7月28日(木)、いなっせにて、夏期研修会が開催されました。当初の予定では、講演会の他、有志による昼食会や午後の「道德カフェ」も準備されていたのですが、感染拡大により、講演会のみで開催に縮小しての実施となりました。

そのような状況でも、当日は、事前参加申込12名に加え、会員以外の先生方も含めて4名の当日参加のご希望もあり、16名の先生方の参加により、道德教育に対する熱い思いあふれる研修会とすることができました。



下島弘子先生による会長あいさつ

5月に引き続き、今回も南箕輪小学校長 大島俊彦先生による「**「道德の授業」こんなとき、どうする？**」シリーズ第2弾の講演が行われました。今回初めてご参加の先生方に配慮して、ポイントは押さえつつ、5月からさらに進んだお話をうかがうことができました。

- ・道德は行為の押し付けを目的としない。ただし、例外的に方法や行為を扱う場合もある。
- ・オープンエンドをゴールに考える場合、価値葛藤をねらうものであり、心理葛藤で終始してしまわないことを指導者はしっかり認識しておく必要がある。また、葛藤による深まりをねらう場合、葛藤が生じるであろう複数の価値に関わって、児童生徒の実態をとらえなければならない。それだけ難しい授業となる。

その他、道德性の芽と  $y=ax$  の効果、体験と重ねる道德授業、教師の説話について等々、有意義なご示唆をいただき、道德教育の目指す方向を指し示していただきました。そして、最後に、「道德教育は、子どもたちが心をつめること、そして、先生方が子どもたちをほめること、それさえ大切にしていけば、だいじょうぶ」とわれわれ参加者の背中を押していただきました。



「心をつめ」「ほめる」のがゴール

日ごろ授業をする中で何気なく違和感を感じていたことがすっきりと晴れていき、「よし、2学期からの道德もがんばれそう！」と勇気づけられる講演会でした。私としては、2回の研修会で大島先生から教えていただいたことをもとに、また、大島先生からいただいたテキストを熟読し、「道德の授業やっていいこと、悪いこと」(第1回目講演会タイトル)をよく踏まえたうえで、次は教科書に限らず、目の前の子どもたちに合った教材資料の発掘や教材化にもトライしてみたいな、という思いを強くしました。(南部小学校 森田正之)